

平成二六年度 第五〇回 校内読書感想文コンクール

最優秀賞

『永遠の0』を読んで

優秀賞

『ふたり』を読んで

『いのちの食べかた』

入選

『東日本大震災』

『犬と私の10の約束』

『永遠の0』を読んで

『屋上から』を読んで

『犬と私の10の約束』を読んで

『鼻』

『永遠の0』を読んで

『瞬』を読んで

『キリン』を読んで

『1リットルの涙』を読んで

『なんにもないけどやってみた』を読んで

『謎解きはディナーのあとで』を読んで

一年一組 関 千夏

一年四組 菊地 ありさ
二年五組 松田 芽唯

一年二組 杉木 沙也香

一年三組 新井 麻耶

一年五組 森下 祥伍

二年一組 福島 陽菜子

二年二組 中村 朱里

二年三組 橋本 郁穂

二年四組 山崎 愛莉

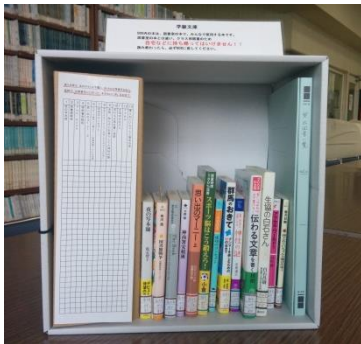
三年一組 飯塚 千晴

三年二組 石田 里奈

三年三組 吉野 莉那

三年四組 横坂 結梨

三年五組 梅津 千尋



学級文庫

学級文庫が始まりました

平成二六年十二月より「学級文庫」を開設しました。

皆さん、手に取ってみましたか？

学級文庫は、図書室の本ですので、大切に取り扱い、必ず箱に戻してください。

※学級文庫の取り扱いについて

一. 箱に入っている書籍は、クラス内だけの貸出です。教室からの持ち出しや、自宅への持ち帰りは、しないようにお願いします。

二. 箱から本を借りるときは、箱の中にある「表」の本のタイトルの下の欄に、自分の出席番号を記入し、返却時に貸出の時に書いた出席番号に○を付け、返却完了となります。

三. 本の表紙を開いたところにアンケートがありますので、本を読んだ人は記入に協力をお願いします。

四. 学級文庫は、約一ヶ月ごとにクラスを移動します。箱ごとに違う書籍が入っています。中に入っている本は、シリーズの一卷目や、上下巻の上巻のみが入っています。続巻は、他のクラスの学級文庫に入っていないので、図書室に借りて来てください。

楽しんで読んでください。同じものが図書室にもありますので、ゆっくり自宅等で読みたいときは、「是非！」図書室へ！



図書部の推進係の生徒さん達がPOPを作成してくれました。生徒玄関にあるガラスケースをチェックしよう！

利根商図書館だより

自由な時間



学校長

大嶋 伊佐雄

三年生の皆さん卒業おめでとうございます。この三年間、皆さんは学習や諸活動を通じて、一人ひとりの個性、豊かな感性、素晴らしい能力を発揮し、成長し、進路や部活動で素晴らしい成果を残してくれました。まさに、利根商の新たな伝統と特色化を図ってくれたと思います。

利根商を卒業する皆さんは、大学、短期大学、専門学校、就職等それぞれの進路に向かいます。たとえ進路が異なることになるにせよ、今後の人生において、皆さんにとっては、高等学校を卒業してからの方がはるかに長い時間を過ごすことになるわけです。

高等学校卒業という時点は、いわゆる人生の玄関口に立ったところだと思います。利根商は、皆さんを社会に送り出すまでの自己形成の役割を担ってききました。利根商で何を学び、何を感じ取り、何を会得したかが皆さんにとって重要なことであり、この学び舎で得た知識、経験や感動を土台にして、それぞれのキャリア目標に向かって挑戦していかねければなりません。皆さんは、利根商で学び得たすべてのことからをもってして、無限の可能性ある未来を切り拓いて行ってもらいたいと思います。

それぞれ違った道を歩み始めますが、利根商業高等学校の卒業生であ

る『誇り』を抱きながら、日々の努力によって、自らの夢と希望の実現に向けて、凛として生きていってほしいと強く願っています。

これから皆さんが社会人として生きて行く中で、ぶつかる壁や障害はたくさんあるに違いありません。そんな時に参考になる書籍がありますので紹介いたします。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災の影響で卒業式の中止を余儀なくされたため学校のホームページに掲げられた、立教新座中学校・高等学校渡辺憲司校長先生の、卒業生へのメッセージがありました。掲載後、ツイッター等インターネットを通して大きな反響を呼び、全国で話題となり、「時に海を見よ これからの日本を生きる君に送る」(双葉社)のタイトルで著書が出版されました。

著者が新たに若い世代に向けて書き下ろした「贈る言葉集」であり、東日本大震災後の日本を生きる高校生たちに強いメッセージを発信している本です。

高校生まで時間は学校、先生、親にずっと管理されています。そして社会に出ればもつと自由が効かなくなってしまう。自分で自由にできる僅かな期間の時間を大切にすることが書かれています。特に、進路する皆さんは、時間を自分で自由に使うことのできる人生では唯一の貴重な期間であり、十分に時間を使い、

これまでとは違う広い世界を見て欲しいということ。そして社会に出た時には人のために尽くす人になっていかなければなりません。そして、いかなる困難に出会おうとも、自己を直視すること以外に道はないということ。いかに悲しみの涙の淵に沈もうとも、それを直視することの他に我々になすべはないということ。また、時には後ろを振り返ることも必要ですが、下は向かず、前を見て、上を向いて、プラス思考で考えていかなければなりません。

いま生きている人間には、その与えられた時間は同じではありませんが全員に「未来」が残されています。東日本大震災からの復興の担い手は、若き健児だけではなく、未来があるもの全員がその役割を担っているのだと、改めて痛感しました。

卒業生の皆さんがそれぞれの夢に向かって失敗を恐れず、自ら道を切り拓いていくような創造的な行動力のある社会人に成長していつてもらいたいと思います。

将来に向かって自分を磨き、「知識の引き出し」を一つでも増やしてほしいと思います。それには読書が大変役立ちます。時間は十分にありません。もう一度、読みたくなるような良書を見つけて読んでほしいと思います。

小講演会に参加して

二年四組 志田 かなえ

一月十六日(金)、午後四時から小松教頭先生による小講演会が行われました。講演会には、計二十七名が参加しました。

小松先生は、小学校一年生のとき、交通事故に遭われ、大怪我をしました。今は医療が発達しています。当時は、幼児には大きな手術もできませんし、医学的なりハビリもありませんでした。そんな中、担任の先生が学級文庫などの本を持って来られました。それが、本を好きになるきっかけだったそうです。退院後も学校への復帰に向け、苦勞されたそうです。幼かった小松先生は心を閉ざしました。それでも挫けなかつたのは、担任だった先生の存在が大きかったからです。そんな担任の先生の姿を見て「こんな人になりたいたい」と思うようになり、教師を目指されました。

そして、無事に教員になり、妻と子供ができて幸せに暮らしていましたが、ある日、二度目の事故に遭いました。

階段から落ち、左足の骨が腰の骨の中に陥没していたそうです。手術のとき、出血量がひどく、死線を彷徨いました。その後、意識を取り戻

されましたが、歩くことが困難な状況で、車椅子で生活することになりました。それでも挫けずに乗り越えられたのは、先生ご自身のお力が大きかったのだと思います。そして、家族や周りの人など、たくさんの人からの支えが、小松先生の力の源になったのだと思います。

小松先生は、人の優しさや思いやりを改めて知ることができたそうです。

小松先生は、今までの人生の中で、数々の試練に直面されました。そのような試練に私達もいつかは直面します。もしかしたら、すでに直面しているかもしれません。しかし、意味のない試練などありません。つまり、支えてくれる人はたくさんいます。そして、身近にある本からたくさん知ることができ、とても有意義な時間でした。



小松教頭先生、ありがとうございました。

映画鑑賞会について

三年二組 石田 里奈

私は、五月に行われた図書館の映画鑑賞会で、「BRAVE HEARTS 海猿」という作品を観ました。

海難事故の救助に奮闘する「海猿」こと海上保安官たちの姿を描いた物語で、主人公が、ジャンボジェット機の海上着水事故を前に、限られた時間の中で人命救助に挑むという物語の流れで、緊張感たっぷりの救命シーンからは目が離せませんでした。

特に私が感動した部分は、海上保安官の一人が、海に沈んだジェット機の中に取り残されてしまい、現場の状況を知る人間のほとんどがその保安官の死を悟る中、海上保安官の一人である仙崎だけはあきらめておらず、海中の保安官を助けに行くというシーンです。奇跡的に飛行機の酸素マスクで生き延びていた保安官を仙崎が必死で助け出す姿に、私は心から感動し、そして、あきらめないというこの素晴らしさを改めて実感しました。

読書会

三年五組 佐々木 眞美

今年の読書会で読んだ本は「藍の空青い空」という本でした。この本は、物語や童話というのではなく、ジャンルとしては、詩集であり読んでみるといろいろと考えさせられるところがあり、とても興味深いと思いました。その中で一番印象に残っているのは、人名に関する詩です。私たちには、それぞれに名前があり、その名を一生名乗っていきます。その名前に、付けた人のどんな願いが込められているかというのを考えたことがあるでしょうか。私は少しだけありますが、親に聞いてみようとは思いませんでした。しかし、この本を読んでみたときに、もう一度考えてみようと思いました。

あまり読むことがなかった本を読むというのとは、とても良いと今回の読書会に参加してみたいと思いました。皆さんもぜひ、図書室を利用して今まで読んでみたことのないジャンルの本を読んでみるのはいかがでしょうか。

人気著者 ベスト3

- ① グリム 治 誠一
- ② 太宰 治
- ③ 森村 誠一

貸出ベスト3

- ① 銀魂 完結編
- ② 六兆年と一夜物語
- ③ 魔女の家

北毛地区図書委員

研修会に参加して

二年二組 櫻澤 綾

今回初めて図書委員として研修会に参加しました。学校内で話し合うのとは違い他校の初めて見る人たちと話し合いをするというので、しっかりと話し合いができるのか最初不安でいっぱいでした。しかし、いざ始まってみると、自分が発言したことについて一つ一つ反応を示してくれてとても話しやすい研修会でした。いろいろな人たちがいるので、いろいろな考えが出て有意義な話し合いでした。少し打ち解けてくると自分のおすすめの本などを紹介してくれました。話し合いをしているといういろいろな考えが出て、自分ではそう思っていないかたがた他の人たちがから見ればそう見えるのか、と考えることがあり、(確かに。)と納得するような理由もついていたので、今回の研修会に参加して良かったと心から思えました。

また、機会があるのならば参加をして、今度は自分から進んで発言をして初めての人がいたら、その人の手本になれるといいと思いました。

多読者一位(一四八冊)

一番好き作家

三年五組 金子 雅樹

私が三年間、本を読んできた中で、一番好きな作家は、成田良悟さんです。

成田さんは、「デュラララ!!」・「バツカーノ!」等のシリーズを書いている作家で、その魅力は、個性的なキャラクター達です。人間くさい妖精人間をゆがんだ形で愛する情報屋、大富豪の吸血鬼、ごく普通のデザイナー。そんな様々な登場人物たちが、各々の物語を展開しつつ、それらが一つにまとまり最高のクライマックスを作り出しています。それが、成田さんの作品の魅力です。

私が、一番好きなキャラクターは、「バツカーノ!」に登場するエルマーです。彼は、笑顔中毒者と呼ばれていて、他人の笑顔と幸福を求めめる悪人です。矛盾しているようですが、その真相は、読んで確かめてみてください。

成田さんの作品は、図書室で読めるので、ぜひ読んでみてください。



多読者二位(一一七冊)

読書について

二年五組 阿部 佑哉

私は、この一年間たくさん本を読んできました。とても読みやすかった本のジャンルは、ライトノベルです。ライトノベルは、大変読みやすくて読もうと思えば、一時間で読破できます。私はただ読んでいるだけで、想像はしませんでしたが、時間がたくと自分にはよい暇つぶしになりました。

他に読んでみて、実用的だなと思った本は、「小論文キーワード二五〇」です。現代文の評論文の中の政治、経済、法律の現代用語が入っている堅苦しい文章が嫌いな自分にとっては、良い用語集だなと思いました。

自分にとっての読書は、時間がたつとくさんある中で暇つぶしのようになるので、自分でも気が付いたら、また読みたいと思うようになっていき、また気になるような本の題名があると借りるようになりました。今年は、あまり時間がないかもしれないので、読めなくなるかもしれませんが、気になった本が何かあれば、読みたいと思います。

多読者三位(九一冊)

お勧めの本と

自分にとって読書とは

二年五組 山岸 孝気

私がお勧めする本は、「シユタインズゲート」という本です。

この本は、タイムマシンが偶然できてしまった主人公の心情やたくさんの世界を知っている主人公の苦しさなど自分たちでも勉強になる本だと私は思いました。

この本の主人公は、タイムマシンを発見した人、本人ではないけれど、たくさんの視点から見ることができると作品だと思いました。

自分にとって読書とは、現実世界でありもしないことが、読んでいるだけで夢を見ることができ、大事な時間です。

しかし、まだ読んでいない本がたくさんあるので、これからたくさん本を読みたいと思っています。

多読者四位〜十位まで

- ④ 森下真優 さん (八五冊) 二年三組
- ⑤ 金子卓浩 君 (六六冊) 一年一組
- ⑥ 林優奈 さん (六一冊) 一年五組
- ⑦ 片野一樹 君 (四三冊) 一年五組
- ⑧ 田辺綾女 さん (三三冊) 三年五組
- ⑧ 神保恵理香さん (三三冊) 一年二組
- ⑩ 高野朋也 君 (二二冊) 二年五組